すくすく学級“ぷち”

急きょ、すくすく学級“ぷち”として実施した親子ふれあいの時間。

１週間前の託児で、お母さんと離れ離れになる体験をした子ども達ですが、「公民館での記憶がトラウマになっているのでは？」という心配がありました。もしそうならば、“公民館は楽しいところ”という新たな情報をインプットしてあげたい。そんな思いを込めて開催しました。

案の定、車から降りる時に「今日は大人のお話に行かないでね。」と言われたというお母さんや「今日は、一緒だから大丈夫だよ！」と声をかけながら来たお母さんも多くいたようです。

実際、遊んでいる様子を見ていても、視界からお母さんがいなくなったとわかるといつにも増して敏感に反応する子ども達が多く、託児の体験が子ども達にとっていかに心細いものであったかが伺えます。

しかしながら、裏を返せば、お母さんが愛されている証拠。

時には、イライラして優しくなれないことがあったり、叱ってばかりだったりの母親だとしても、子どもにとっては、そばにいてくれるだけで安心な存在。 転んで痛かったり、お友達と物の取り合いをして悔しくて泣いたりした時も、やっぱり戻ってくるのは、大好きなお母さんの胸や膝。

その気持ちを受け止めるだけでいいと言われても、うまくできない時もあります。それでも、子どもがお母さんのもとに戻ってくるのは、お母さんが子ども達にとって“安心・安全な心の基地”だから。子どもが素直な気持ちをぶつけられるのも、甘えられるのも、そんな存在だと認めてくれているということなのでしょうね。

７月のアンケートの設問「子育てに不安を感じることがありますか？」に、ほとんどの方が「ある」と答えていました。 すくすく子育て講演のタイトルも『みんな悩んで親になる』でした。 不安を感じるのも、悩むのも親としても前を向いている証ですよ。

中学生といっしょ！

今回のすくすく学級“ぷち”は、中学生の職場体験の場にもなりました。中央公民館での職場体験の一環として、すくすく学級体験をした中央中３年生のＦ君。前日の打ち合わせから、当日の準備、そして本番と全力で取り組んでくれました。歌の振り、体操、読み聞かせの練習では、私たちのダメ出しにもへこたれず（笑）、本番も努力の成果が発揮されていましたね。

初めて会う大勢のお母さんの前で、自分もすくすく学級に母親と通っていたこと、小さい頃の思い出話（ちょっと恥ずかしい話？）など語ってくれました。それを見守るように聴いているお母さんたちの姿もとても微笑ましかったです。

いつもの歌や手遊び、親子たいそうも大盛況。なかでもエビカニクスは、キレ、掛け声ともにパワー全開。「もう１回！」のリクエストで２回続けて踊ってしまいました！！

１週間前のことがうそのように元気な子ども達の姿に、より一層癒されるひとときとなりました。

体ほぐしのために行った肩もみでは、お互いの体に触れ合いながら話も弾みました。

急な開催となりましたが、20 組以上の親子の参加をいただきました。久しぶりの暑さの中、お出かけも億劫だったことと思いますが、本当にありがとうございました。

★Ｆ君には、職場体験の一つとして掲示物の作成を行ってもらいました。すくすく学級“ぷち”を体験した感想などを載せた掲示物を別紙で紹介しています。そちらもどうぞご覧ください。